ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

「はじめる」から「かなえる」へ。福島県では、震災から10年を機に「ふくしまからはじめよう」からのバトンを渡す、スローガン「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」を策定しました。復興に向けて歩んできた「これまで」と、新しい未来に繋げていく「これから」と、県民のみなさんひとりひとりの「今」を重ねたメッセージです。

プラごみ怪獣掃討大作戦
～アクアマリンふくしま～

公益財団法人 ふくしま海洋科学館

アクアマリンふくしまは、「環境水族館」として海洋プラスチックごみの問題にも取り組んでいます。2022年は、夏～秋の企画「プラごみ怪獣掃討大作戦」を開催しています。これは子どもを対象に、「海に流れ出たプラスチックごみが集まって怪獣になってしまった」という設定で、プラごみを減らすためにどうすればよいのかを考えてもらうイベントです。

10月には「プラごみ怪獣掃討作戦会議」というシンポジウムを開催します。

ホームページで詳しい情報を公開しています。 アクアマリンふくしま　イベント・企画展 検索

『2022年、海にはプラスチックごみがあふれ、どんどんと増えている。増えたプラスチックごみはいつしかプラごみ怪獣になってしまった。プラごみ怪獣を退治するためにはみんなの協力が必要だ。』

アクアマリンふくしまに現れたプラごみ怪獣

海洋プラスチックごみの現状

少し前までは、海に流れ着くプラスチックごみは年間800万トンであるといわれていました。最新の報告によると年間1,200万トンが流れ込んでいるとされています。報告の内容はすべて推定であり、どこまで正確な数字であるかはよく注意しなくてはいけませんが、世界のプラスチックの使用量は年々増えており、その廃棄量についてOECD（経済協力開発機構）は、2019年に３億5,300万トンであったものが2060年には10億1,400万トンに増加すると予想しています。その一部が一定の割合で海に流れ込んでいるとすれば、海のプラスチックごみの量が増えているのも当然です。

海面や砂浜にあるプラスチックごみは海に流れ出たプラスチックごみの６％にしかならないといわれており、それ以外のプラスチックごみは海底に沈んでいきます。プラスチックは非常に丈夫で、条件が整ったとしても分解されるまでに少な

海岸に点在し、夕日に反射する
プラスチックごみ：いわき市岩間海岸

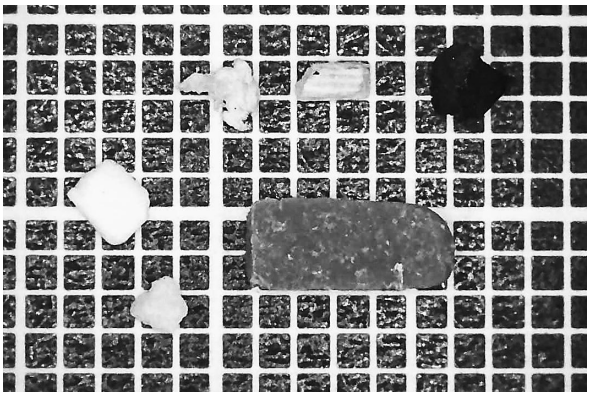
くとも数百年はかかるといわれています。海底の暗くて温度の低いところでは分解されることなく永遠に残ってしまうことも予想されます。

プラスチックは分解こそされませんが、紫外線や塩水の影響で固くなり、どんどん小さく砕けていきます。こうして細かくなってしまったものがマイクロプラスチックといわれるものです。

プラスチックごみにさらされる福島の海

こうした事態は福島県の海岸でも起きています。福島県の沖合は、南からの黒潮と北からの親潮が流れてきており、時期によって潮目ができています。海岸に流れ着くプラスチックごみは、主に南から流れてくる黒潮に乗って流れ着きます。西日本では中国や朝鮮半島からのプラスチックごみがかなり多く流れ着いていますが、福島県の海岸でも韓国語や中国語の書かれたペットボトルなどを見かけることがあります。海が荒れたり、風の強い日にはどの海岸にも多くのプラスチックごみが流れ着いていたりします。福島県沖でぶつかった黒潮と親潮は太平洋を東に進み、ハワイ沖を通って北アメリカ大陸の方まで流れていきます。つまり福島県沖で砂浜に上がらなかった、もしくは流れ出たプラスチックごみは太平洋の海底に沈んでいくか、アメリカやカナダに流れていく事になってしまいます。

そして、アクアマリンふくしまのあるいわき市内のどの海岸に行っても小さなプラスチック片、マイクロプラスチックが見つかります。福島県の海岸も海洋プラスチックごみの脅威に大いにさらされています。



いわき市四倉海岸で採取した
マイクロプラスチック：方眼メモリ１㎜

プラごみ怪獣掃討大作戦

アクアマリンふくしまでは、2018年に世界水族館会議という国際会議を開催しました。会議では海洋プラスチックごみ問題についても取り上げられ、今すぐ取り組まなくてはならない課題として大会宣言に盛り込まれました。アクアマリンふくしまでもプラスチックごみ問題を取り上げる活動を行うようになりました。

2022年の夏～秋の企画として「プラごみ怪獣掃討大作戦」を開催しています。これは、「海に流れ出たプラスチックごみが集まり怪獣になってしまった。怪獣の力は強く、やっつけるためには、海のプラスチックごみを減らして怪獣を弱めるしか無い」という設定で、「私のプラごみ削減宣言」を書き込んでもらうというものです。

５月21日㈯には、プラごみ怪獣の素材となるプラスチックごみを集めるイベントを実施し、13名の方が参加して、いわきサンマリーナ脇の海岸で清掃活動を行いました。短い時間でしたが、多くのプラスチックごみが集まりました。

５月21日㈯の海岸清掃の様子

集めたプラスチックごみを使ったプラごみ怪獣の制作には、アクアマリンふくしまの中にも作品を飾っているデザイナーの日比淳史さんと、バルーン造形家の安元啓一郎さんに協力していただきました。出来上がった高さ2.2mの迫力ある怪獣は、夏場のような時期だと閉館時間になっても明るいので分かりにくいですが、暗くなると目が光る仕様になっています。

プラごみ怪獣の脇には「私のプラごみ削減宣言」としてプラスチックごみを減らすための工夫

を書いてもらうメッセージボードを用意しました。子どもたちのお絵描きも多いのですが、少しでも思い出に残ったり、家で話をしたりする機会になればよいと思っています。

プラごみ怪獣は10月21日㈮まで展示しています。

プラごみ怪獣掃討作戦会議

こうした活動の中で、最後は海洋プラスチックごみについて子どもたちに考えてもらうシンポジウムを開催します。タイトルを「プラごみ怪獣掃討作戦会議」とし、楽しんで参加できる内容のものとしました。開催内容は以下のとおりです。

１日目＜作戦会議（シンポジウム）＞

日時：10月22日㈯　10：00～12：00
場所：アクアマリンふくしま
定員：事前申し込み制180人
※入館料が必要です。

２日目＜決戦（海岸清掃）＞

日時：10月23日㈰　９：00～10：30
場所：岩間海岸　※現地集合
定員：なし
※どちらか一日だけの参加も可能です。

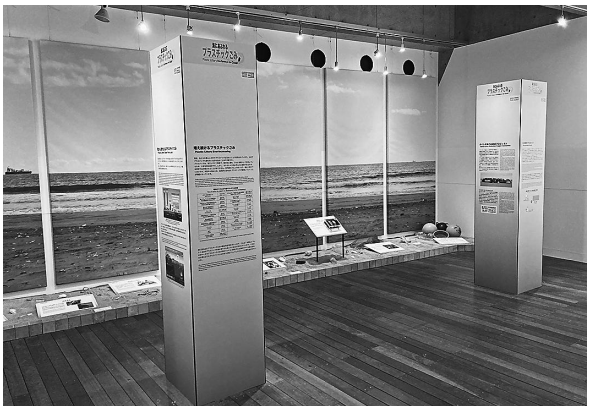
（参加申込二次元コード）

アクアマリンふくしまの取り組み

アクアマリンふくしまでは、プラごみ怪獣以外にも海洋プラスチックごみの削減について取り組んでいます。

昨年好評だった、県内の小学生や未就学児を対象に募集したプラスチックごみを使って画用紙に作品を作る「プラごみアート」を今年も募集し、応募された作品を10月８日㈯から11月27日㈰まで展示します。

また、館内３階には「海にあふれるプラスチックごみ」コーナーが常設展示されています。海洋プラスチックごみの現状についての情報やプラスチックごみの被害に遭っている海の生き物について紹介しているコーナーで、いわき市内で回収したプラスチックごみや日本からカナダのバンクーバーに流れ着いたプラスチックごみなどを展示しています。



プラごみ展示コーナー

アクアマリンふくしまは、自然光が降り注ぐ中に、生き物本来の姿をありのまま展示する世界でもユニークな展示方法で、森から海まで、陸上から深海まで多様な環境の生物を展示している施設ですが、こうした豊かな自然を感じるとともに私たちの行いがそれを壊してしまうかもしれない、将来に渡って守っていくのは私たち一人一人の行動が重要であるということを感じてもらえればとてもうれしいです。

自然光の中を泳ぐカツオの群れ

アクアマリンふくしま　検索

[問い合わせ先]
公益財団法人　ふくしま海洋科学館
アクアマリンふくしま　0246－73－2525